

審査の結果の要旨

氏名 姉崎 久敬

本研究は、臨床での治療方針決定や医療政策に患者の要望を反映させるために重要となる患者の選好を定量評価することを目的としたものである。日常活動に関連する選好として女性の子育ての時間価値を評価し、健診受診行動への時間価値の影響を分析した。また、医療プロセスに関する選好として周産期ケアについての支払い意思額の評価を行った。この2つの実証的研究から、以下の結果を得ている

1. まちと家族の健康調査の2011年調査を使用し、就労状況の分析から女性の子育て時間の価値を推定した。平均的な時間価値は13.6ドル（時間あたり）で0-3歳児を有する女性の時間価値は16.9ドルと推定された。健診受診に対して推定された時間価値を用いて分析を行った結果、子どもを有しない女性の推定健診受診率は61.7%、0-3歳児を有する女性の推定健診受診率は54.2%だった。

2. 近畿地方において乳幼児3か月健診に参加した女性を対象としたアンケート調査にてデータ収集を行い、仮想的質問を用いたコンジョイント分析により分娩管理プロセスの表明選好を明らかにした。医療プロセスとして、医師による分娩管理と助産師による分娩管理を比較した。分析の結果、助産師と比較した医師の分娩管理に対する追加的な支払意思額は1,283ドルと推定された。

3. 本研究により推定された子育ての時間価値および医療プロセスの価値は、既知の時間価値や医療価値と比べて大きな値を示した。これは従来の医療アウトカムを中心とした医療価値の評価に加えて、患者の視点でより幅広い医療価値を評価することが、患者の要望を反映させた治療方針の決定や医療政策に必要であることを示唆するものである。

4. 特に利便性が向上するがアウトカムに顕著な優位性がない医療技術などに対して、関連したプロセスの価値や患者の時間価値への影響を考慮することは、より患者の要望を反映した治療方針の決定や医療政策につながり、重要であることが示唆された。

以上、本論文は日常活動および医療プロセスについて患者の選好を定量評価し、既知の時間価値や従来の医療アウトカムを中心とした医療価値と比較しても無視できない価値があることを明らかにした。本研究は医療ケアに関連した幅広い患者の選好の価値を定量的に明らかにし、臨床の医療選択や医療政策に貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。